

第 25 期日本学術会議健康・生活科学委員会看護学分科会  
第 8 回議事録

開催日時：2022 年 12 月 9 日（金） 10:00～12:02

場所：オンライン会議（zoom 下記参照）

出席者：小松、西村、新福、浅野、井上、萱間、真田、坂下、多久和、田高、菱沼、三重野、南、森山、山本、吉澤、綿貫、神原(記録)

欠席者：宝金、坂本、太田（敬称略）

（議題）

1. 次期会員、連携会員の推薦について・・・・・・・・・・（資料 1）

次期会員の連携推薦に関する現状に関して、小松委員長より説明があった。

国の方針は、内閣府から資料が届いている（資料 6 を参考のこと）。日本学術会議としては、コ・オペレーションで粛々と準備中である。総会のなかで、内閣府から「日本学術会議の在り方についての方針」をもとに、説明があった。問題意識や時間軸を共有しつつ、中長期的・俯瞰的分野横断的という文言が繰り返されるという特徴がみられた。最短で 3 月末までに法改正に向けて準備されている。新たな組織に生まれ変わる覚悟で抜本的な変化が求められている。学術会議は内閣府の中に位置付くが国とは独立して意見は言えるものである。などの説明があった。

分科会では、軍事・積極的な防衛に関する議論の有無、議論の公開等について、質疑があった。

(2)各班の活動について

2. DX 班・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（資料 2）

1)：看護学分科会からの「報告」の発出について

新福委員より進捗報告があった。意志の表出として、報告を行う。時期は 2 5 期中である。骨子は、ほぼできており、3 月までにまとめて「報告」に査読を行う。これまでのワーキンググループの動画もあるので、希望する委員は申し出てほしい。

-今後は、「提言」、「見解」の場合は申出書を出した上で、科学的助言対応委員会によって、他の提言との重複や社会的（横断的）学術的意義があるかについてコメントをもらうようになっている（小松委員長）。

-今回は若手に学術会議活動に参画してもらいたいことを考え、ワーキンググループには、幹事 4 名と JANS 若手委員会から特に DX 研究をしている有志、仲上先生、吉永先生、友滝先生、加澤先生、横田先生に参加していただいている。

-シンポジウムの内容について、森山委員、真田委員に加筆いただきたい旨、依頼があり、快諾された。

地元創成看護学班 . . . . . (資料3)

西村委員より、前回の班会議の議事録に基づいて報告がなされた。

- 1) 日本看護協会出版会 HP：鼎談の掲載
- 2) 「看護研究」特集の掲載
- 3) 「看護教育」教育活動についての鼎談の校正中
- 4) 医学界新聞への特集掲載

JANS42において「公開シンポジウム 地元創成看護学の実装」を開催した。会場は20～30名だったがオンラインで90名以上であった、地元創成看護学の実際を発表していただき、三重大西村連携会員にコメントをいただいた。ここまでの活動を「報告」として発出することとなった。1月末の報告の申請提出を経て、3月末までに作成する予定である。(西村委員)

- 1) 班会議の報告：「地元創成看護学」の英語表記について

西村委員より、これまで班会議で検討した表記(案)の紹介がなされた(資料3)。

・案1：Nursing for the revitalization of the “JIMOTO (home community)”

・案2：Nursing for the creative development of the “JIMOTO (home community)”

・案3：Nursing for the innovative development of the “JIMOTO (home community)”

・案4：Nursing for/toward/to the innovative development with the “JIMOTO” (home community)

既に多様な事例をまとめており、これを客観性を持って広めること、24期提言の後に出ている多くの成果をもとに、インパクトのある「報告」を作成していく。(小松委員長)

3. 高度実践看護師の制度の発展：APNのグランドデザイン . . . . . (資料4)

神原委員よりシンポジウム開催の準備に関する説明があった。

- 1) シンポジウム開催にむけて

5月開催を目指している。指定発言として日本看護系大学協議会や日本看護協会に依頼したい。日本看護系学会協議会の調査でも取り上げている。また、いくつかの学術誌やメディアの記事として、シンポジウムの内容を残していく活動も必要である。

報告を受けて、裁量権などの言葉の使い方、既にある事例の紹介、シンポジウム登壇候補者の推薦、登壇者のジェンダーバランス、日本看護系学会協議会での取り組みの紹介等がなされた。

5. ケアサイエンス分科会より

1) 第3回シンポジウム(3月18日) 主催・・・・・・・・・・・・・・・・(資料5-1)

西村副委員長より、シンポジウムの内容が紹介された。令和5年3月18日(土)で企画は通っている。

2) 未来の学術振興構想への申請・・・・・・・・・・・・・・・・(資料5-2)

ケアサイエンス分科会が中心になって未来学術振興への申請を行いたい。テーマは、「地域共生社会の成熟・深化に向けたケアサイエンスネットワーク拠点」で検討している。最後の仕上げについて意見が求められ、ネットワーキングや情報コミュニケーションに関する記載が必要であるとの意見があった。日本看護系学会協議会の理事・監事へも共有と意見が依頼された。